

松田康博教授



中国の習近平

国家主席は中国大陸と台湾が不可分であるとい

う政治的立場を強調し、台湾問題をしっかり掌握しているという印象付けに成功した。台湾の馬英九総統にとっても、「一つの中国」の原則を巡る「1992年合意」が台湾の平和と繁栄を支える基礎だと訴えることで、来年1月の総統選で優勢が伝えられている独立色の強い野党・民進党をけん制する狙いがある。

国民党 巻き返し困難

この時期に会談が実現したのは、中国側には台湾での与党・国民党の支援、台湾側には総統選の選挙情勢を好転させたいという狙いがあった。その点で、思惑が一致した。会談は国際社会で一定の評価を受けるだろうが、選挙まであと2か月というタイミングでの会談は「北京による露骨な選挙介入」として、台湾で有権者の反発を招く可能性が高い。国民党の劣勢を覆すほどの効果は期待できないのではないか。